リフォーム・ホームレスキュー
国・実・通・信
193号
企画 国実女子部

株式会社
国実
佐久市中込3611-170
TEL.0267-64-1822
国実 検索

国宝

最終章　慈愛の花

新年会の席で移住の件を皆に伝えた京子は、その後自宅の仏間に一人鎮座し手を合わせていた。

長い年月を閉じ込めたような静寂が胸の奥に沈みこんこんでいた。5代先まで掲げられた遺影と肖像画に囲まれた部屋の空気は冷え、吐く息が白く蛍光灯の光をさえぎっている。

彼女は意を決したかのように首を垂れ深く息を吐きそして、6代続いたこの家が空き家になる事を先祖に詫びた。

・ごめんなさい・・
肩が小さく震えた。
この家を守り続けた人々の想い、積み重ねられた暮らしの記憶、そのすべてに背を向けるような痛みが胸の奥に刺さっていた。

しかし遺影の中の先祖たちは地域の人たちと同じで何一つ責めることなく、京子の想いを受け止めてくれた。京子は目を閉じそして手を合わせつぶやいた。
（ありがとう　ここまで守ってきてくれて・・・）
その思いは過去と現在をつなぐ細い糸となって仏間の空気に溶けていった。

京子が今回のリフォームで要望したのは、ガスコンロを火力の強い最新のものに変えてほしいとただそれだけだった。時間が許す限りお茶請けをつくり、集落の皆に届け今までどおりお茶会を続けるつもりだ。

その場はきっと深い哀感を持った思い出が途切れることなくよみがえり、静謐な空間いっぱいに広がっていく宝箱であり、何が幸せで、どんな時が寂しくどこに向かっていきたいのか、何か大事なものを取りこぼしていないか、今一度時代の奥行に手を伸ばし確かめる場でもあった。

集落を包む厳冬の凛とした空気。
古びた民家の湿気を含んだ独特のにおい。
沸き立つ芽吹きの春愁。
日差しは温いのに床の冷たさが背筋をただす感覚。
蒼穹を衝く子供たちの歓声。
祭りの提灯と喧騒。
止めがたい時の中で変わりゆく風景　繋がり。

これら指先に触れる思い出のカケラは甘美で抱きしめたくなるほど愛おしく、潮の引いた砂浜で見つけたお気に入りの貝殻に似て、幾重にも輝きを放っていく。
変わりゆく風景を皆で見届けよう!!

それは痛みを伴うが同時にここに生きたという証を胸に刻む痛みと割り切った。変わり者といわれるかもしれない。この決断は美しい徒労に終わるかもしれないし、静かな嘘に代わるかもしれない。でもいろいろなものが失われ新たな価値が矢継ぎ早に生まれ追いかけてくる時代に，その新なものに合わせるのがつらい時、きっとそれは変えてはいけないもの。きっとそれが一番好きな事。（ただやりたいことをやるだけ）と、静かに上向くその姿に気負いはなかった。

今日より明日がよくならなくてもその先は決して、行き止まりではないと信じるために京子はその光を強く握りしめた。

引き継ごうとする未来への道筋を人口減少の引き波は、容赦なく憐憫の情もなく飲み込もうとしている。長い歳月をかけ積み重なったものが、いったん決壊しはじめたら人はそれ引き止めることはできない。
砂崩のように歴史も　文化も　景観も　すべてを飲み込み、足元からねこそぎさらっていく。

昔の唱歌に描かれた牧歌的な風景が季節の訪れとともにすくっと立ち上がることはもう二度とないだろう。そんな過酷な波際で生を全うしようとするひたむきな人生に寄り添う（生粋のいい人）。

京子という慈愛の花がかすかな希望を宿し山あいで揺れている。
その花は現代の草莽であり　国の宝。

完成間近の京子の実家

文化講演会のお知らせ

コロナ渦で中断しておりました文化講演会を今年から再開させていただきます。
2010年から
当社文化講演会にお招きした方々です

松本神宮寺住職
高橋卓志　自分らしい葬儀と演出を
こども論語塾主宰
安岡定子　今こそ孔子の教えに習う
医学博士
養老武志　老いる力
さわやか福祉財団会長
堀田　力　活力ある長寿社会
エッセイスト
落合恵子　老いるのは嫌ですか
社会学者
上野千鶴子　おひとりさまの最後
地域エコノミスト
藻谷浩介　老いゆく日本と、高齢化先進地域・佐久のこれから
精神科医
香山リカ　シニア期に自分の心と向き合う
エッセイスト
小島慶子　聞いていた話と違いますが?!
石見銀山生活文化研究所代表取締役所長
松場登美　足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ
奈良（カフェ雑貨くるみの木）代表
石山由起子　夢をカタチにすること
小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック院長
小笠原文雄　なんとめでたいご臨終
敬称は略させていただきます
尚肩書は当時のものです

国実文化講演会開催のお知らせ

便利さがどんどん更新され、私たちの暮らしは一見豊かになったように見えます。

しかしその裏側で、気づかぬうちに手放してきたもの、見えなくなってしまったものが確かにあります。効率を求めるあまり、暮らしの手触りや、人との関わり、時間の余白が薄れていく今。

そんな〝便利の影〟を静かに見つめ続けてきた作家・大平一枝さんを迎え、講演会「便利の向こう側」を開催します。

演題　「便利の向こう側」
講師　大平一枝氏
会場　佐久ホテル　入場無料
開催日　4月16日（木）
時間　午後1時30分～
定員　50名　定員に達し次第締め切らせていただきます
申込先　TEL 0267-64-1822 佐々木まで

NHKあさイチ出演

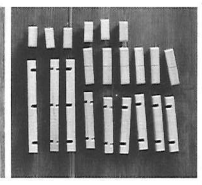
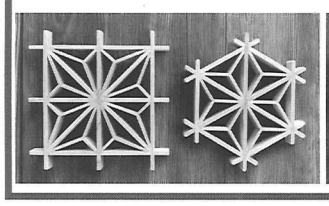
伝統工芸を学ぶ

今回は【組子】
実際に組立ながら
その緻密な工法に触れます

伝統工芸見学として、今回は建具職人さんによる「組子づくり」を体験します。事前に用意された専用キットを使い、釘を使わず木を組み上げる日本の精巧な技を実際に手で感じられる貴重な機会です。

現在の新築では使われることが少なくなった組子ですが、その美しさと技術を未来へつなぐための学びの場として開催します。募集は5組限定。ぜひご参加ください。

日時　5月14日　午前10時～
開催場所　国実事務所
募集定員　フリースペース　5名
会費　2000円
講師　小諸市　堀部建具工藝　堀部　洋一さん

大人の社会科見学報告 3月20日 クリーンセンター見学

今回の見学では、浅間山を望む小高い丘に建つ焼却施設を訪れ、地域のごみ処理の現実と向き合う時間となりました。

施設は地元との契約が20年で、更新されなければ解体されてしまうという話に、参加者からは「もったいない」という率直な声が上がりました。また、瓶や缶などの処理不能物が混入すると、他地域では6億円もの補修費が発生した例もあるとの説明があり、分別の大切さを改めて実感しました。

一方で、廃熱を利用した発電や、焼却灰をガーデン用品として再利用する取り組みなど、3Rを徹底した無駄のない仕組みも印象的でした。寒さの中、煙突から立ち上る水蒸気を眺めながら、環境を守るための技術と人の努力を肌で感じる見学となりました。

参観全員による集合写真

見学コースが用意されていてガラス越しに見られます